

DATA FILE



六方晶系

名 前	CHRY SOPRASE (クリソプレース) / 緑玉髓
化学組成	SiO ₂
色	緑色
光 沢	ガラス光沢
蛍 光	なし
条 痕	白色
劈 開	なし
断 口	貝殻状
硬 度	モース硬度スケール: 7
比 重	比重スケール: 2.65

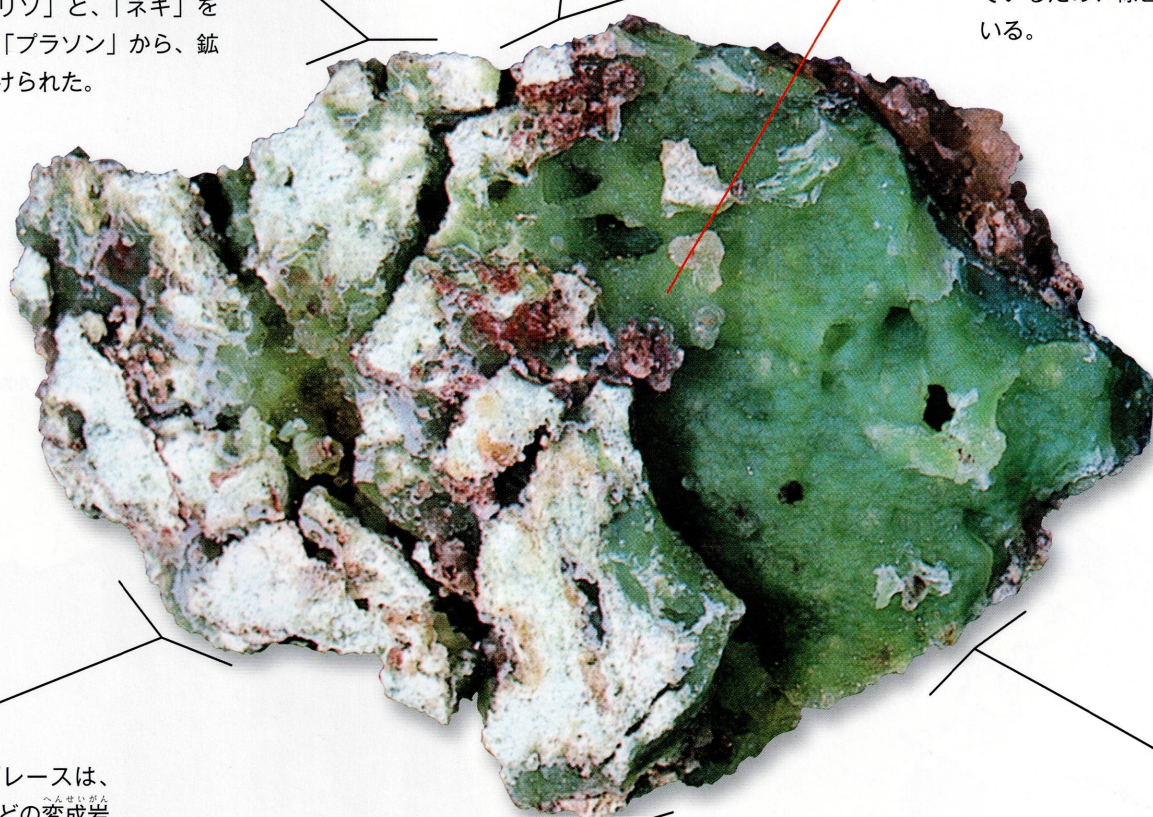
クリソプレース

CHRY SOPRASE

質の良いものは、カボション・カットされたり、カメオやビーズ玉への加工に用いられている。

オーストラリアのクインズランド州で産出したクリソプレース。ニッケル化合物の不純物を含んでいるため、緑色をしている。

ギリシャ語で「金色の」を意味する「クリソ」と、「ネギ」を意味する「プラソン」から、鉱物名がつけられた。



クリソプレースは、蛇紋岩などの変成岩中に細い脈として産出する。

太陽光にさらされると、色があせてしまうため、宝石としての価値は限定される。また、翠緑色のものは、ひすいに間違われることがある。

ハンマーなどでたたくと貝殻状の断口があらわれ、素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

▶クリソプレーズの塊。



細かい石英の粒の集まり

クリソプレーズは、玉髄質の石英で、ニッケルを含有しているのが特徴。石英のなかまは、結晶が発達してその形があらわれているものと、クリソプレーズのように顕微鏡を使用しなければわからないほど細かい粒の集まりでできているものに大きく分けることができ、後者は「潜晶質」といわれている。

コロイド懸濁物

クリソプレーズには、不純物としてファルコンダイト、カルピンスカイト、ヌボア石、ペコライト、ウィレムサイトなど、ニッケルを含有するケイ酸塩鉱物が含まれていることがある。これらの鉱物は、微細な粒子となって、クリソプレーズ全体に均一に広がっている。このようなものを「コロイド懸濁物」という。

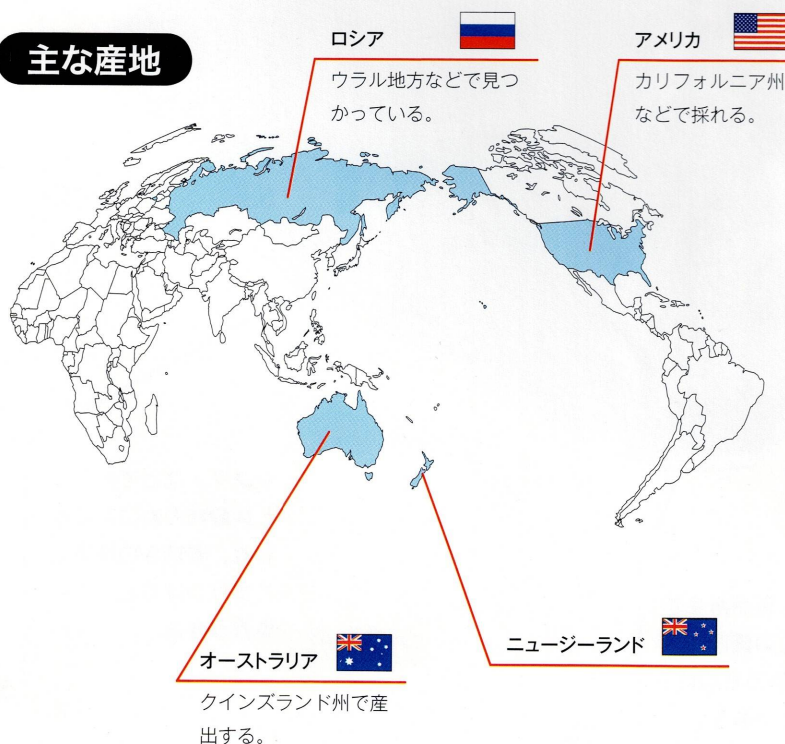


▲コロイド懸濁物が一部に見られる。



▲クリソプレーズでつくられたカメオのブローチ。

主な産地



▲斑入りのクリソプレーズ。
インド産。